

# ウクライナ“停戦交渉”も…市民は火炎瓶・バリケードで徹底抗戦 作業員の破壊活動も

[2022/02/28 17:30]



緊張が続くウクライナ情勢です。日本時間の28日午後4時ごろ、ウクライナ政府関係者はロシアとの停戦交渉が1時間以内に開始すると話しました。

撮影者：「私の家の周りようになった。絶対に仕返ししてやる」

ウクライナ・首都キエフ近郊の町、ブチャ。ロシア軍がキエフ中心部に近づいています…。

撮影者：「これが今のブチャだ。ブチャだ！」

そんななか、一縷（いちる）の望みとなるのでしょうか…。

ロシアとウクライナの停戦交渉が、現地時間28日朝にも始まる見通しです。ウクライナ政府関係者によると、1時間以内に始まるということです。

ウクライナ・ゼレンスキー大統領：「ルカシェンコ大統領はロシアとウクライナの代表団が、プリピャチ川で無条件で会談するよう話した」

ウクライナのゼレンスキー大統領はベラルーシのルカシェンコ大統領と電話で会談し、ベラルーシとの国境でロシアと交渉を行うことで合意したと表明しました。

ロシアとの交渉中は、ベラルーシ側が攻撃を加えないことを保証したといいます。

しかし、**ウクライナメディア**は、ロシアがベラルーシ側からロケットランチャーミサイルで攻撃したと報じています。

これまでロシア側は停戦交渉を行う前提条件として、ウクライナの「非武装化」「中立化」を求めていたといいます。それが、今回、無条件で停戦交渉を行うことになったというのです。しかし、ゼレンスキー大統領は懐疑的です。

**ウクライナ・ゼレンスキー大統領**：「会談の結果については期待していない」

27日、ウクライナ南部マリウポリでは、ロシアの砲撃で6歳の女の子が負傷しました。病院に運ばれましたが、死亡しました。

ウクライナ保健省は、ロシアの軍事侵攻で、これまでに352人の民間人が死亡したと明らかにしました。そのなかには14人の子どもが含まれています。また、けが人は、子ども116人を含む1684人に上るといっています。

**市民に徹底抗戦を呼び掛けるゼレンスキー大統領**。それに応じるように、街中では市民が**火炎瓶を作っていました**。こちらの**ビール会社**では**ビールの製造を火炎瓶の製造に切り替え**ました。

また、AP通信は、軍隊経験がある囚人が、戦闘を希望すれば解放されていると伝えています。

海外メディアによりますと、ロシアはウクライナ軍の激しい抵抗だけでなく、燃料や備品不足で、侵攻の速さが鈍っているといいます。

激しい戦闘が続くなか、欧米はロシアへの厳しい経済制裁を発表。

「SWIFT」と呼ばれる国際的な金融決済システムから、ロシアの一部の銀行を排除するとしました。これに、ロシアのプーチン大統領が強硬姿勢をみせています。

ロシア・プーチン大統領：「西側諸国が我が国に対し違法な制裁措置を取っているだけでなく、NATO（北大西洋条約機構）のリーダーたちも攻撃的な発言をしている。国防相、参謀長にロシア軍の抑止力部隊を、特別戦闘準備態勢に移すことを命令します」

プーチン大統領は27日、軍の幹部を招集し、核を含む「抑止力部隊」を厳戒態勢に移すよう指示したのです。

まさか、核をちらつかせているのでしょうか…。

アメリカ・バイデン大統領：「ロシアと実際に交戦し、第3次世界大戦に突入するか、ロシアに国際法違反の代償を払わせるかどちらかだ」

軍事ジャーナリスト・黒井文太郎氏：「この後はですね、ウクライナ軍がいわゆるゲリラ的な戦いになれば、ロシア軍は市街地を片っ端から壊していくとなりますので、そうなった場合はもっと今より、全然被害が大きくなるということが予想されます」

そんなウクライナの街に残る人からは、驚きの言葉が…。

ロシア軍との攻防が激化する、ウクライナの首都キエフ。中心部の通りに、人の姿は見えません。

キエフ在住、パルホメンコ・ボグダンさん（35）：「今、警察車両、特殊部隊かな、よく分からない車が通りました。初めて誰かがここの周辺を通ります」

撮影しているのは、日本育ちのウクライナ人、パルホメンコ・ボグダンさんです。

キエフ在住、パルホメンコ・ボグダンさん：「一時期は、皆死ぬんじゃないかなみたいな雰囲気だったんですけど、幸い今、生きています。今、防空壕（ごう）に戻ります。空襲警報が5分くらい前に出てずっと防空壕の方に行っている感じです。本当にボロボロですけど、壁はすごく厚いので空襲が来ても問題ないはずですよ」

自宅マンションの地下にある防空壕で、家族と避難生活を送っています。

キエフ在住・ボグダンさん：「今はものすごく集中砲火を受けているので、『2日間出るな』という政府の指示です。外は今、警察と軍人が手分けをしてセキュリティをしてくれている。今ウクライナ中で何が起きているかというところ、ロシアのスパイ、工作員とかロシアから買収された人たちが、色々内部で爆発を起こしたり、テロを起こしたり内部から戦争を仕掛けてきている。外にいれば、運が良ければ（警察や軍に）IDチェックされて終わり。運が悪ければ、射殺されても誰も何も文句が言えない状況。外にいる人は最初から敵だと見なされます」

極限状態のなか、市民たちは、自らの命を守るための行動に。ロシア軍の侵攻に備え、避難所でバリケードを作っています。

キエフ在住・ボグダンさん：「ウクライナ全土が一丸となって、日本の震災の時みたいに、助け合いの精神で自分の国は何としても守ると。武器がなくても火炎瓶を用意したりとか、そこら辺にあるもので対応するという状況だから、すごく今一丸となって、チームプレーで頑張っています」

激戦が続く、ウクライナ第2の都市ハリコフでは、ロシア軍がパイプラインを爆破したと伝えられています。

ハリコフに事務所がある日本の企業は、危機管理の対応に迫られています。

アイスリーデザイン・芝陽一郎社長：「ハリコフの現状を聞かせてください」

東京・渋谷区にある IT 企業です。ハリコフで、ウクライナ人社員 15 人が働いています。

日々、戦況が目まぐるしく変わるなか、オンラインで、社員たちの安否を確認しています。

現地責任者：「一部の人には避難を考えているようですが、他の場所へ行く方が危険だと考える人もいます」

アイスリーデザイン・芝陽一郎社長：「展開がだいぶ早くて、僕も含めて現地メンバーも戸惑っているというのが今の率直なところ」

28 日も安否確認を行い、現地社員 15 人は全員、無事だといいます。